

CASE

04

宮川幼稚園

# “ほんとうの田んぼ”ってどんなだろう？

～お米の先生とオンライン交流～



## 活動内容

- お米の先生とオンラインでつなぎ、田んぼ一面に実った稲穂や稲を収穫する様子を見学し、幼稚園で育てている稲との色の違い等に気づき、米作りや稲刈りへの興味や関心が高まった。
- 日本の米作りの文化や風習について知ることができ、自分達の米作りと重ねながら考えた。
- 園外の人ともオンラインを通して繋がれる喜びを感じられた。

## 活動の広がり

- 以前交流のあった他園の園児とオンラインで交流することに繋がった。
- 互いの活動を共有することで、同じことに共感したり、違うことに興味を持ったりと深く交流できた。
- 交流したいという気持ちが高まっているので、今後もし取り入れるとともに、時期を合わせて実際に会いに行くなどの交流に繋げていく。

…… 子供の育ち ……

- 🌾 社会生活との関わり
- 🌾 自然との関わり・生命尊重
- 🌾 思考力の芽生え
- 🌾 言葉による伝え合い

繋がることで興味が  
深まりました！

### 事例提供

芦屋市立  
宮川幼稚園 澁谷 倫子 園長



CASE

05

コスモストーリー保育園

# カマキリの卵と赤ちゃんを見てみよう

～産卵場面の動画視聴後、赤ちゃんの誕生を見てみよう～



## 活動内容

- 担任保育者が園庭で撮影したカマキリの産卵場面の動画をクラスで共有した。
- 閲覧後、実際の産卵場所である固定遊具を見に行き、「こんな所に卵あるのすごいね」と赤ちゃんが産まれるのを楽しみにする姿が見られた。

## 活動の広がり

- 卵の大きさや形、カマキリの種類など、実際に見た卵についてもっと知りたいと探究するようになっていった。
- 後日、虫かごで飼育していた別のカマキリの卵から実際に赤ちゃんが産まれてくる場面を見て観察を楽しむ姿が見られた。

..... 子供の育ち .....

- 🌱 思考力の芽生え
- 🌱 自然との関わり・生命尊重
- 🌱 言葉による伝え合い

知りたい気持ちが  
広がりました

### 事例提供

社会福祉法人勇翔福祉会  
コスモストーリー保育園 西野ちはる 保育士



CASE  
06

認定こども園七松幼稚園

# 葉っぱのザラザラを見てみよう!!

～デジタル顕微鏡の画像からクイズ作り～



## 活動内容

- 以前より虫眼鏡で色々なものを観察していたが、虫眼鏡では物足りなくなった。
- デジタル顕微鏡を用意すると、ミクロの世界を観察し、虫眼鏡では気がつかなかった「葉脈、葉の裏の穴」の存在を知る。

## 活動の広がり

- 撮影した写真を大型テレビに映し出し、「これは何でしょう?」と、クイズを出題する活動に発展。
- 気づきを伝え合うなど、子供同士の対話も増え、細かな形を絵で表現したり、学びを深めていった。

…… 子供の育ち ……

- 🌟 言葉による伝え合い
- 🌟 自然との関わり・生命尊重
- 🌟 豊かな感性と表現

考える力や探求心が  
深まりました

### 事例提供

学校法人七松学園  
認定こども園七松幼稚園 屋嘉部涼加 保育教諭



幼児教育での ICT 活用では、子供の興味・関心を誘発するだけでなく、

## 「問い」を持たせ、 興味・関心を広げることが大切です

これからの時代を生きる子供たちには、対話や協働を通じて知識やアイデアを共有し、新しい解や納得解を生み出す力※1、が必要だと言われています。自ら企画し、多様な他者と協働しながら、主体性や創造性を発揮できることが求められます。そのために、教師は子供たちに「問い」を持たせることを考えます。

冊子にも、たくさんの「問い」が見られます。園で育てている稲と田んぼの稲の違いに興味を持ち、遠隔地のお米の先生と交流して、ほんとうの田んぼを知っていきます。さらに、今まで微細な部分まで気づかなかったカマキリの産卵や孵化の場面をデジタル顕微鏡で体験し、そこから得たことを、クイズにして友達に広めたり、別の昆虫にも興味を持ち、活動が広がります。

これらは、子供なりに、「なぜ」「どうして」「あれっ」など追求と探究を繰り返しながら遊びが進んでいきます。そこでは、自分の考えを持ち、友達と話し合い、協力して、課題解決に向かいます。試行錯誤することで、新たに解決のアイデアも浮かぶでしょう。このような探究的な活動に ICT は役立っているのです。

一方で、ICT を活用し始めると、子供たちは、写真や動画、インターネットのコンテンツにも触れ、許容、処理できないぐらい大量のデジタルデータを受け取ります。そのため、私たちが目指す主体的・対話的で深い

学びの過程の実現に向けて、子供たちが、ゆっくりと振り返る時間を設けることが重要になります。見通しを持って粘り強く取り組み、自らの遊びを振り返る。自分の思いや考えを表現し、伝え合う。見方や考え方を働かせながら、子供なりのやり方やペースで試行錯誤を繰り返す※2 時間が必要なのです。冊子の「活動の広がり」は、その時間から生まれて、子供たちからアイデアが出てきます。お米の先生とオンラインでつながった子供たちは、以前交流のあった他園の園児ともオンラインでつながりました。さらに、転園した子供とも交流が始まるかもしれません。

中国・上海市では幼稚園に対して、「子どもの視力を守る環境づくりチェック項目」を制作して、保育を行う時のテレビやプロジェクターなどの機器の1回あたりの使用時間を制限しています。また、タブレット端末など、みんなで共有して使用するものにはルールがあり、ルールを守らなければ、みんなに迷惑をかけたり、健康に影響を及ぼしたりすることも、子供たちに丁寧に説明するとよいでしょう。

### <参考文献>

- 1 新しい時代の初等中等教育の在り方について（諮問概要）  
[https://www.mext.go.jp/component/b\\_menu/shingi/toushin/\\_icsFiles/afieldfile/2019/04/18/1415875\\_2\\_1.pdf](https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2019/04/18/1415875_2_1.pdf)
- 2 教育課程部会 幼児教育部会（第7回）配付資料 資料3 幼児教育部会とりまとめ（たたき台案）より引用  
[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo3/057/siry\\_o/attach/1370317.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/057/siry_o/attach/1370317.htm)

## 令和4年度 直接体験を豊かにするICT実践チャレンジ事例集

本事例集は、文部科学省の令和4年度「幼児教育施設の機能を生かした幼児の学び強化事業」の委託業務として、学校法人七松学園が研究成果の一部をまとめたものであり、複製、転載、引用等には文部科学省の承諾が必要です。

### 令和4年度 直接体験を豊かにするICT実践チャレンジ事例集作成委員会

代 表 亀山 秀郎（学校法人七松学園）  
調 査 研 究 委 員 佐竹 智恵子（認定こども園七松幼稚園） 鈴木 正敏（兵庫教育大学） 堀田 博史（園田学園女子大学）  
志方 智恵子（認定こども園七松幼稚園） 高橋 翠（東京大学発達保育実践政策学センター） 椋田 善之（関西国際大学）  
事例集作成委員 石本 絵美（認定こども園七松幼稚園） 大森 祥子（認定こども園七松幼稚園） 天願 順優（コスモストーリー保育園）

（敬称略）